

第 14 章 福岡新田遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

福岡新田遺跡は、亀居遺跡付近を湧水源とする福岡江川の右岸、武蔵野台地の一段低い立川段丘面上で、標高 7 ～ 10 m 前後の平坦地に位置する。遺跡周辺は福岡江川が僅かに南に湾曲し、江川の侵食による蛇行なのか、埋没谷や湧水などの影響によるものかは不明である。江川から南に広がる窪地と周辺部には僅かな微高地状の起伏もみられる。

福岡新田は江戸時代の慶安年間 (1648 ～ 52 年) に川越藩の新田開発により成立した村で、『新編武蔵風土記稿』によると、村域は江川左岸の「東西 25 町許、南北 5 町」とあり、東西約 2.7 km・南北約 500 m である。遺跡範囲は当初、江川の北側にも延びていたが、北側は松山遺跡に統合し、南側のみを福岡新田遺跡とした。遺跡の範囲は南北 230 m、東西 240 m であるが、広がる可能性もある。

遺跡周辺は宅地開発もされるが、畑地も多く残っている。周辺の遺跡は、江川の対岸に松山遺跡、200 m 東側に鷺森遺跡、350 m 西側に駒林遺跡 (2008 年駒林新田前遺跡と統合) がある。

本遺跡周辺の調査は、1982 年新田 2 丁目の試掘調査以来、2014 年 12 月現在 5 ケ所で実施している。2013 年 1 月、第 4 地点の本調査で奈良平安時代の住居跡 1 軒を検出、遺物も出土している。

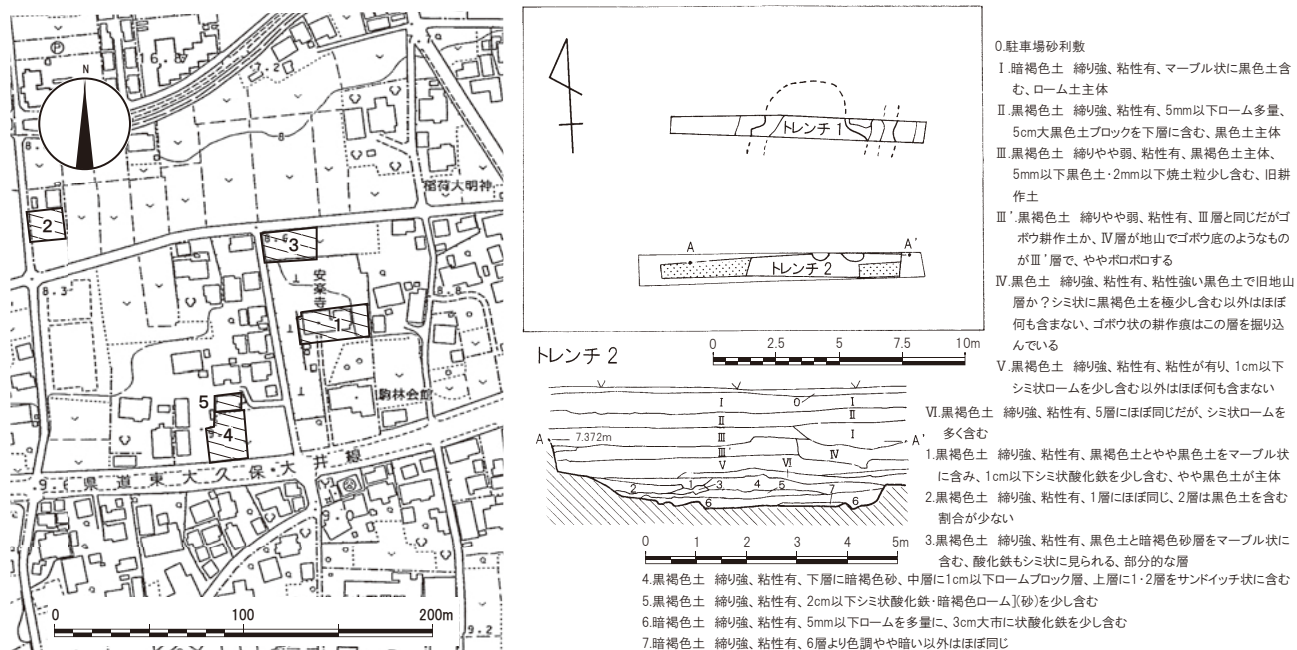
II 福岡新田遺跡第 2 地点

(1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より 2011 年 8 月 1 日付で「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡の範囲内に位置するため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するための試掘調査を実施した。

試掘調査は同年 9 月 12 日から 14 日まで行った。幅約 1 m のトレンチ 2 本を設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行った。盛土が 80 cm 程あり、現地表面から地山ローム層までは、約 1.7 m であった。調査の結果、時期不明の溝 1 本を検出した。遺物は無く、土層の観察からも遺構とは断定出来なかった。溝の上幅 6.4 m、下幅 2.4 m、深さ 70 cm である。

写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえ、埋め戻して調査を終了した。旧石器時代の確認調査は行っていない。



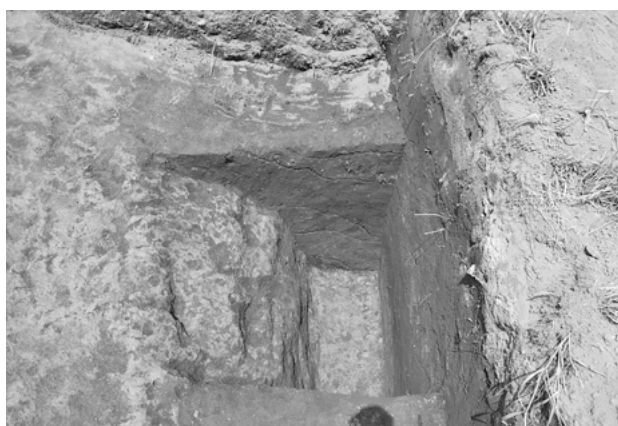
第 65 図 福岡新田遺跡の地形と調査区 (1/4,000)、第 2 地点調査区域図 (1/300)、土層 (1/150)



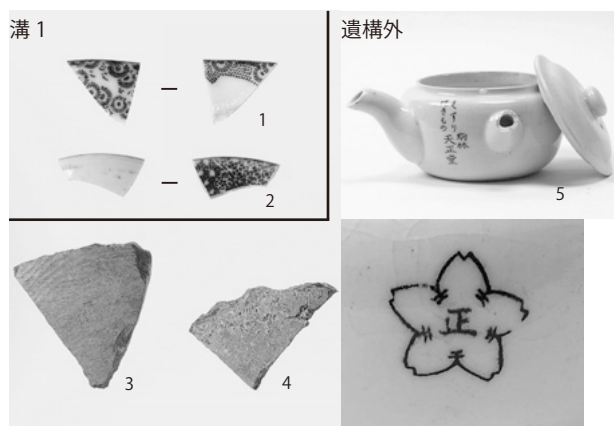
駒林遺跡第 28 地点 A 区全景



駒林遺跡第 28 地点 B 区全景



駒林遺跡第 28 地点 A 区掘跡



駒林遺跡第 28 地点溝 1、遺構外出土遺物



福岡新田遺跡第 2 地点調査風景



福岡新田遺跡第 2 地点トレンチ 1



東久保南遺跡第 29 地点調査風景



東久保南遺跡第 29 地点調査風景